

# お父さんいつも全力でありがとう

大関おおぜき  
宙そら

ほくのお父さんは、めちゃくちゃかわいい。ほくが一番かわいいと思う時は、叱る寸前の目つきだ。たいていはほくはそういう時にならないと気づかない。自分をセーブできないのがほくの定めなところだ。

お父さんは何でも全力でやる。手ぬきをしない。ほくはそこがお父さんのすこいところだと思う。自分のしゅ味の自転車やマラソンも全力。家での食器洗いや草むしりも全力。当然、ほくを叱るのも全力だ。でも、ほくが全力でがんばったときや良い行いをしたときは全力でほめてくれる。このお父さんのメリハリのある全力によって、ほくはやる気になるし、救われる。

そんなお父さんの口ぐせは三つある。まず一つ目の口ぐせは、何かを始めた初期のころ。「どうせやるなら全力でつべん目指せ。」だ。中と半ばでただやれば良いというのが大きい。いなお父さんのその言葉ですつと育ってきたので本気になる。時々へこたれそうになるけれど、ほくは菌を食いしばりやっている。

二つ目の口ぐせは練習などの中期のころだ。「勝負するのは自分だ。」という言葉。これは、父としてサポートできることは全てやった。だからあとにはほく次第だ。ほくは努力して勝利を勝ち取らなければならぬことを教えてくれる。きつい言葉だ。いつもこの言葉を言われるたびに、ぐっと心がいたくなるけれど、お父さんがうんとほくを応援してい

る気持ちがおこめられているのが分かる。

三つ目の口ぐせはやり終わった後の言葉。「よくがんばったな。でもこれで終わりじゃないぞ。」という言葉。結果がよくても悪くてもこの言葉をかけてくれる。ほくは、悪い結果のときには、お父さんの「よくがんばったのだから。」が自分は本当に練習も本番も全力でがんばったのだから。と気づいて反省させられるものとなる。よい結果のときには、お父さんは笑顔でこの言葉を使う。しかもほくが本当に全力でがんばったとみとめたときは、目を真っ赤にしてなみだをうかべて大はしゃぎで喜んでほめてくれる。ほくはそのしゅん間がたまらなくてうれしく幸せだ。最近では水泳大会で、一回しか勝ったことのないライバルに一秒の差をつけて優勝したときお父さんのなみだでうるんだ笑顔を見た。あとからさつえいしたビデオを見ると、お父さんの、「宙、行けー。まけるなー。」という大きな声が入っていた。

ほくのお父さんはこんな風にはよくを全力で叱り、全力でほめ、応援してくれる。ほくがだめなときは、修正するヒントを出してくれる。お父さん、ほくを毎日しっかり見ていてくれてありがとう。ほくは今十二才。十二年毎日お父さんは全力で育てて来たのだと思う。これから先もほくをしっかりと見ていてほしい。ほくもお父さんのように何でも全力でがんばれる人間になるからね。